「薬剤師の在宅訪問業務アンケート調査について」

佐賀県薬剤師会　在宅医療委員会

岩橋弘典

【目的】

在宅医療委員会では、薬剤師の在宅訪問業務に関する状況調査を実施してきた。現状の課題や問題点を把握し薬剤師が行う在宅医療の充実並びに他職種への広報を含めた事業企画を実施してきた。また、佐賀県薬剤師会で運用している「在宅訪問薬局検索システム」の更新の基礎資料としての活用も視野に入れて、調査を継続してきた。

今回、過去6年間のアンケート結果をまとめてその推移と方向性を見出すこととした。

【方法】

アンケートを佐賀県薬剤師会の会員薬局にＦネットで一斉送信し、未提出薬局には再度個別に送信、各地区の在宅医療委員より声掛けも行っている。

【結果】

令和2年のアンケート調査は、県内の488薬局すべてに回答を頂き、100％の回収率となった。

訪問業務を行っている薬局の割合はH26の18.05％から50.41％に増加し、また居宅療養管理指導

の実績はH28の32820件から51783件まで増加している事から薬局の在宅訪問業務に関する意識は高くなっている事が言える。しかしながら、訪問業務を行っている薬局の薬剤師の人員数が1人の場合の訪問件数は2.06件/月、4人以上の場合だと26.64件/月と大きく差が出てしまう事も分かった。また、毎年7000件以上の在宅訪問に対する未請求が発生しており、多かった理由としては、「利用者の理解が得られない」「業務内容が十分ではない」といった内容であった。

【考察】

薬局は、以前よりも在宅訪問業務に対する重要性を十分に理解し始めている。一方それを行う環境の未整備により、行動を起こせない要因がある事が分かった。また、患者様に価値のある医療を提供する臨床的な在宅業務に関する知識・技術が不足している事が推測できる。これらを踏まえて当委員会としては、在宅訪問業務の効率化・臨床的な服薬管理に関する知識の向上に向けた研修会を企画し、会員へ提供し、継続していかなければならないと考える。